

長畝ふるさと通信



【2026年6月号】

■ 生育は順調です

新潟県の梅雨入りは平年より9日遅い6月20日でした。比較的気温も高く、適度に雨が降ったおかげで生育は例年以上に順調に進んでいます。ただ、生育が良いのは苗だけではなく田んぼの雑草も好天の恩恵を受け、あきれるほど増殖し伸び放題です。そこで急遽、ドローンによる除草剤散布を実施しました。今年はとにかく「1俵余計に獲る」を最優先の目標にしているので、早めの対処療法です。畦草も刈っても刈っても次から次へと伸びまくり、一周終わるころにはまた・・・無限ループです。やることは山ほどあっても手が足りない。猫の手もない・・・



水田雑草や畦草は時期によって違う種類の雑草がどんどん生えてきます。例年なら水田内雑草は田植え時に除草剤を散布しておけばあらかた退治できるのですが、今年は雑草のほうが強かったようで・・・。後期雑草のヒエも難敵で放置すると稲の生育に悪影響を与えます。まいったね～。

■ 玄米袋の自動結束機を導入しました

組合では収穫したコメを約 12,000 袋ほど30kg玄米袋で出荷しています。玄米を袋詰めするのは結構な重労働で、誰もがやりたがらない作業です。昔なら集落内に当たり前のように専属でやってくれる先輩もいましたが、今は職員しかやる人がいません。そこで思い切って玄米袋の自動結束機を導入することにした次第です。従来の人力では1日5人がかりで600～700袋が限界でしたが、こいつは1時間に1200袋を無人で結束するので大幅な人件費削減になるはずでした。ただ、従来袋は紐で口を結ぶので袋の開閉が容易でしたが、自動結束機はミシンで口を閉じてしまうため、一度開けたら口を閉めることができません。よってこの袋は業務出荷専用で、皆さんの予約分は従来袋で対応いたします。この機械の導入のついでに玄米色彩選別機も能力の高いものに更新し、ライスセンターの古い施設も一部改修します。総工費はおおよそ3,500万円。コメ相場がこれ以上下がらないことを心から願っています。



■ 東京農大の実習を受け入れました。

6月8日～13日まで東京農大の実習を受け入れました。今回の学生はサッカー部とアメフト部の2名。天候にも恵まれ、新緑の佐渡を満喫したようです。二人とも都会育ちでコンクリート生活しかしてこなかったそうで、こんなに開けた風景に感動したとか。「高い建物もないし、夜は真っ暗なんですね。電車なくてどうやって移動するんですか」と我々にとっては当たり前のことが不思議なようです。溝切、草刈りを中心に作業してもらいましたが彼らにとってはあくまで実習、農業をやる



つもりは欠片もないとキツパリ。そりゃそうだと変に納得するのでした。世の中では初任給が30万円だとか週休3日だとかひと昔前の労働環境とは180度転換してしまいました。困ったことがあれば上司ではなくチャットGTPに頼り、嫌ならすぐ



転職、最後はユーチューバーになる・・・ワールドカップ決勝戦のチケットが最安値で110万円・・・現世についていけないおじさんでした。

● シャインマスカットも順調に生育しています